

ニラ



育苗

[3~4月] 播種
液剤は散水時に使用



播種床の準備は、下記、本畑と同じにする。
本畑と違う土壌は良くない。

- 根っ酵素1000~500倍液 → 根を強くし、生長を揃えて促進。
 - 花咲くCa液1000~500倍 → 葉を厚くし、苗質を充実させる。
- ※7~14日間隔で交互に、葉の上からタップリ散布。

追肥は粒状、または
アミノ酸液を使用



【追肥】

苗床1アール当り、**硫安・畑の大将〈青〉各2kg**
※本葉2枚展開後に第1回、半月ないし1ヶ月後に第2回の計2回追肥すること。
※施用後 散水して、葉についた粒は落とす。
※苗の健康のために、チッソ（またはNPK成分）のみではなく、Caも施す。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
本畑の地力作り	なるべく早い時期(1ヶ月前迄)に投入して、深耕する。	<ul style="list-style-type: none"> ●ラクトバチルス600g → 排水がよく、肥沃な土を作る。 ●堆厩肥3トン以上(5トン程度を推奨) ※約2年分の地力を作るために、しっかりと堆肥を投入する。 ●硫安80kg(通常の複合肥料ならチッソ成分16kg程度) ※この硫安は元肥になるが、ラクトバチルスによって地力的に効く 定植時には、土壌EC:0.1~0.2に安定していることが大事。 ※土壌pH:6.0~6.5に調節しておく事が必要。前作からカルテック農法を継続していれば、ほとんど問題が無いはずだが、今作からの取組みなどで、土壌pH:6.0より低い(5.5程度)の場合は、畑の大将〈青〉60kg程を地力作り時にも投入して、深層土まで酸性を中和する事。 ※よく言われるpH:6.5~7.0では高pHすぎ、徒長しやすくなる。栽培途中にもpH調節が出来るので最初、高pHにする必要なし。
本畑の整地時	整地(ウネ作り)時に、(ウネ上に)散布	<ul style="list-style-type: none"> ●畑の大将〈青〉60kg ※土壌pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将〈赤〉を施す。 ●マンゾク粒状30kg → 根の強化、生長の促進、連作障害の対策。
[5~6月] 定植時	植え溝に散布、またはドブ漬け	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素500倍液 → 活着と初期の根張り促進。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
1年目の生長管理 (2年目・収穫前迄)	葉面散布 葉上から、根まで染み込むように、タツプリと散布または灌水施用。 (半月ごと、交互に)	<p>●根っ酵素500倍液 →根の力をつけて生長を促進。葉先まで厚くして、葉先が枯れない。 ※特に生長が弱い場合、根腐れの場合、抽ダイが心配な場合、花茎の刈取り後には、原液3～10ℓを灌水施用(300倍以上)。 ※根が強くて肥切れの場合は、アミノ酸液500倍を葉面散布。</p> <p>●花咲くCa液500倍 →生育を引締め、葉を厚く充実させる。 ※葉腐れ、白斑葉枯れなどが心配な時、チッソ過多の場合は特に有効。</p>
[9月] 追肥	右記を同時に施用 半月間隔で2～3回 (株の養成・充実)	<p>●マンゾク粒状20kg×1回または10kg×2回 →根の強化、充実促進。</p> <p>●硫安10kg×2回 ●畑の大将〈青〉10kg×2回 ※土壌pH:6.0以上(特に6.5以上)なら、畑の大将〈赤〉を使う。</p>
[翌年の春] 捨て刈り・収穫の時	刈取り前 7日頃	<p>●花咲くCa液500倍 →葉を厚く充実させ 旨味を増し 鮮度を保持する。</p>
	刈取り直後(灌水)	<p>●根っ酵素500倍液 →根を回復させ 次の茎葉の伸びを促進。</p>
	刈取り後 5日頃	<p>【追肥】</p> <p>●硫安、畑の大将〈青〉各10kgずつ ※土壌pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将〈赤〉を施す。 ※施用後に灌水して、粒を株から洗い流す。 ※ニラ特有の臭い(硫化アリル)はイオウを多く含むので、田畑の大将〈赤〉が効果的。しかし、土壌pH:6.0以下に酸性化していたら、畑の大将を使用する。 ※刈取り時に傷んだ根をまず回復させ、その後に追肥を施す。 この方法で株の栄養バランスと健康を保って、消耗させず、次の茎葉を順調に伸ばす。</p>

※上記は、大葉品種(スーパーグリーンベルト等)の、春蒔き露地栽培(夏穫り雨よけ)の施肥例。

3年目も収穫する場合は8月中に収穫を打ち切って、以後9月の追肥から繰返す。他の作型は上記から類推する事。